

勢

五年 13
筆順 + 六 勢 勢 勢
オン セイ
クシ いきおい

成り方



↓ 勢
↓ 勢
↓ 勢
↓ 勢
↓ 勢

人が土いじり(園芸)をしているという意味の「勢」と、「力」とを組み合わせて作った字です。

「人が土いじりに力を入れる」という意味の字ですが、そうすれば、「草木が「いきおい」よくなる」ところから、「いきおいづく」、または「いきおい」という意味に使われます。
【例】攻勢、火勢、優勢。

「いきおいの「ようす」の意味から、「ようす」なりゆき」の意味に使われます。
【例】時勢(時代の勢い)↓時代のようす↓時代のなりゆき)、地勢、情勢。

また、「勢いは「人数」によって強くも弱くもなるところから、「人数」の意味にも使われます。
【例】大勢、総勢、多勢に無勢。

使い方

- ▽最初は攻められていたが、次に攻勢に転じて、陣地を取りもどしました。
- ▽風にあおられて火勢が強まり、そのあたりは一面火の海になりました。
- ▽赤組は、優勢に試合を進めています。
- ▽近頃の若者は年長者に対して礼儀正しくないが、これも時勢というものでしょうか。
- ▽一組が四十二人、二組が四十三人、総勢八十五人でてかけます。

熟語例

- ▽攻勢(相手に攻めかかる勢い)
- ▽火勢(火の燃える勢い)
- ▽優勢(勢いがまさっていること。対「劣勢」)
- ▽時勢(時代のなりゆき)
- ▽地勢(土地のようす。地形)
- ▽情勢(物事のなりゆき。ありさま)
- ▽大勢(多くの人数。「大勢でやれば、仕事が早く片づく」などと、つかいます。)
- ▽総勢(全体の人数)

精

五年 14
筆順 米 精 精
オン セイ・シヨウ
クシ

成り方



↓ 精
↓ 精
↓ 精
↓ 精

「清める」という意味を表した「青(呉音はシヨウ)」と、「米」とを組み合わせて作った字です。

よく念を入れて米をつき、皮やはいがを取り去って、「白くした米」のことを表した字です。

今の「精米」のことです。

今では、米のことに限らず、「念入りの」とか「すぐれたもの」とかの意味に使われています。

- 「念入り」【例】精製、精練、精選。
- 「根気がよい」【例】精励、精勤、精力。
- 「すぐれた」【例】精鋭、精兵、精彩。
- 「くわしい」【例】精細、精巧、精通。

使い方

- ▽このあめは精製されたおいしいあめです。
- ▽ぼくは剣道に精勤しています。
- ▽人の心を精神と言うわけは、心は神からさずかた。つと。いものだからだと思えます。
- ▽どんなに精巧な機械でも、人間の体の精巧さにはとてもおよびません。

熟語例

- ▽精製(念入りに製造すること。)
- ▽精選(念入りに選ぶこと。【例】ここにある本は、すべて精選されたものばかりです。)
- ▽精勤(根気よく勤めること。休まずに通うこと。)
- ▽精励(根気よく励むこと。)
- ▽精力(根気よく仕事する力。)
- ▽精鋭(すぐれていて鋭いこと。【例】精鋭部隊)
- ▽精兵(精鋭な兵士。えりぬきの兵士)
- ▽精彩(すぐれた色彩。すぐれた絵を表現することばですが、人の活動のすぐれていることにも使います。)
- ▽精細(くわしく細かいこと。)
- ▽精巧(精細で巧みなこと。)